

東洋アルミニウム CSR報告書

# CSR REPORT

## 2012



# CSR REPORT 2012



## Contents

- 3 **1 トップメッセージ**
- 3 経営理念
- 3 行動方針
  
- 4 **2 東洋アルミグループのCSR活動について**
- 5 CSR基本方針
- 5 CSR行動憲章
  
- 6 **3 コンプライアンスへの取り組み**
  
- 7 **4 環境調和への取り組み**
- 7 東洋アルミグループの環境方針
- 9 環境会計
- 9 環境マネジメントシステム
- 10 環境に関する規制遵守の状況
- 12 環境目標への取り組み
  
- 14 **5 社会への取り組み**
- お取引先との関わり**
- 14 品質保証の取り組み
- 15 情報セキュリティの取り組み
  
- 従業員との関わり**
- 16 安全衛生の取り組み
- 17 明るく健康な職場作り (AKS) 活動
  
- 地域社会との関わり**
- 19 地域社会貢献活動
  
- 21 **6 トピックス**
- 21 環境にやさしい製品
- 22 財団法人軽金属奨学会の活動
- 23 東日本大震災への義援金・支援物資の提供

### ■ 本報告書の対象範囲

東洋アルミニウム株式会社  
東海アルミ箔株式会社  
東洋アルミエコープロダクツ株式会社  
(TEP と略することがあります)  
エー・エル・ビー株式会社  
東海東洋アルミ販売株式会社

トータル アメリカ社  
トータル ヨーロッパ社  
トータル テクノフロンティア株式会社  
肇慶東洋鋁業有限公司  
湖南寧郷吉唯信金属粉体有限公司  
アルファミック株式会社

### ■ 対象期間

本報告書のデータ集計期間は  
2011年4月～2012年3月です。  
※一部についてはこれ以前のデータを含みます。

## Outline

商号	東洋アルミニウム株式会社 Toyo Aluminium K.K.
本社所在地	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 三丁目6番8号
設立	1999年5月12日 (旧東洋アルミニウム株式会社は 1931年4月設立)
資本金	80億円
株主	日本軽金属株式会社 100%
営業品目	アルミ箔 アルミ板 アルミペースト アルミパウダー アルミ合金粉 高純度窒化アルミニウム粉 他
決算期	3月31日
従業員	956名(2012年3月末現在)
事業場	大阪オフィス 大阪府大阪市 東京オフィス 東京都品川区 八尾製造所 大阪府八尾市 新庄製造所 奈良県葛城市 群馬製造所 群馬県伊勢崎市 日野製造所 滋賀県蒲生郡

# 1 トップメッセージ



私たち東洋アルミグループは、業界 No.1 企業として堅実な事業経営を通じて常にお客様の満足を得られる製品、且つ、社会に有用な製品及びサービスの提供を目指して参りました。特にアルミニウムの特徴を活かして環境に貢献できる製品の開発に力を注いできました。また、関連する技術を生かして太陽光発電装置の素材も提供し、自然エネルギーの利用拡大に寄与しています。

東洋アルミグループでは「グローバルトップニッチャー」（専門領域の最強者）の位置づけを強固なものにするために様々な取り組みを進めていますが、その基盤として、社会的に存続を許される企業として CSR（企業の社会的責任）を重視する経営を展開して参ります。ステークホルダーの皆様には信頼して頂ける企業に、そして従業員には誇りを持てる企業になることを目指して参ります。

昨年発生した東日本大震災の教訓を生かして潜在的なリスクに対応する体制も整備していくことにしています。

この CSR 報告書は、これらの活動を皆様にご報告するために作成致しました。今後もこれらの活動を積極的に推進することで、良き企業市民であり続けたいと願っています。この東洋アルミグループの CSR に対する姿勢をご理解頂き、皆様方からの一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

山本博

## 経営理念

私達東洋アルミグループは

1. 堅実な事業経営を通じて、常にお客様に感動を与え、社会に有用で、且つ環境にやさしい製品およびサービスの提供を目指します。
2. 絶えざる技術革新に努め、高い技術力を活かした製品の提供に努めます。
3. 生き生きとした自由闊達な企業風土を育み、集団の天才を目指します。
4. 社会的責任を自覚し、品格のある企業として社会貢献します。

## 行動方針

1. 一流を目指そう
2. 知恵くらべに勝とう
3. コミュニケーションを深めよう
4. 失敗力を身につけよう
5. 感性をもっと働かそう
6. アライアンスの構築を図ろう
7. 安全への意識をもっと高めよう

## 2 東洋アルミグループの CSR 活動について



東洋アルミグループの CSR 活動に対する考え方は、経営理念の中の「社会的責任を自覚し、品格のある企業として社会貢献します。」という言葉に集約されています。

この考え方に基づいて、安全推進、環境調和、品質保証、コンプライアンス推進、情報セキュリティの 5 点に重点を置いた取り組みを展開しています。

これらの取り組みを進めるために、各重点取り組み項目毎に 2011 ~ 2013 年の 3 ケ年のアクションプランを定めて活動を展開してきました。

2013 年の目標としては、安全推進では、「各部門毎にリスクアセスメントが継続的に進められる体制づくり」、環境調和では「各工場毎の環境目標を継続して達成できる仕組みづくり」としました。また品質保証では「顧客満足度の向上」、コンプライアンス推進では「各活動を通じたコンプライアンスレベル向上」、情報セキュリティは「維持審査をクリアできる水準の維持」であります。

またこれらの 5 点の活動をさらに展開する形で、東洋アルミグループ全体の AKS (明るく健康な職場づくり) の推進、さらに全社危機管理委員会を発足させ危機管理体制の構築に取り組んでいます。

今後もこれらの取り組みを積極的に展開していくことによって、CSR 活動の充実に努め、お客様を始めとしたステークホルダーの皆様から信頼される企業グループであることを目指していきたいと考えています。皆様の一層のご支援をお願い致します。

取締役常務執行役員 CSR 推進室長

福井康司



## 2 東洋アルミグループの CSR 活動について

### CSR 基本方針

東洋アルミグループは、健全な事業活動を維持向上できる企業風土の構築を目指します。そのために、社会的規範や企業倫理に適合した企業活動の展開、安心してお使い頂ける製品品質の提供、地球環境と調和した経営活動の推進、及び労働安全衛生を職場の最優先事項とした活動を通じて社会的責任を果たす経営を展開して参ります。

### CSR 行動憲章

東洋アルミグループは、アルミ箔事業、アルミペースト事業、電子機能材事業を中心とした製品・サービスの提供を通じて広く社会に貢献する。そのために健全な事業活動を維持向上できる企業風土の構築を目指して、以下の7原則に基づき行動する。

#### 1. 法令遵守

関係法令および規則を遵守することはもとより、社会的規範や企業倫理に適合した企業活動を行う。

#### 2. 消費者・顧客の満足と信頼

社会のニーズを適確に把握し、社会的に有用な製品・サービスを開発、提供し、消費者および顧客の満足と信頼を獲得する。

#### 3. 社会との関係

広く社会とのコミュニケーションを図るため適正に企業情報を開示し、企業活動においては公正で自由な競争を行う。また地域社会との良好な関係の構築に努め、良き企業市民として積極的に社会に貢献する。

#### 4. 従業員のゆとりと豊かさの実現

人を大切にする企業として、従業員の人格・個性を尊重し、安全と衛生を第一と考えた働きやすい職場環境を確保し、従業員のゆとりと豊かさの実現に努める。

#### 5. 国際社会との協調

グローバル企業として、国際ルールや現地法を遵守するとともに、現地の文化や慣習を尊重する。

#### 6. 環境への取り組み

環境への取り組みは、企業の存続と活動に必須の要件であることを認識し、環境との調和を図ることによって、持続可能な社会の構築に向けた取り組みを継続して行う。

#### 7. 行動憲章の周知徹底

経営トップは本憲章の精神を十分に理解して率先垂範し、グループ全体に徹底するとともに関係者に周知させる。

## 3 コンプライアンスへの取り組み



東洋アルミグループのコンプライアンス活動は、2003年12月より「コンプライアンス委員会」を活動母体としてスタート致しました。

現在、各事業所にコンプライアンス推進グループを設置し、リーダーを中心に『法的リスクの課題』や『コンプライアンスミーティング』等、主として啓蒙・教育、モニタリング活動等を担っています。

今後、従来から取り組んでいる上記活動に次ぐ新たな柱を構築することを目的に、コンプライアンス推進メンバーの活動を、強化するための仕組みづくりを検討しています。

また、2012年4月より御所製造所及び平野工場が新しく事業所として加わりましたので、両事業所に対しましても東洋アルミグループにおけるコンプライアンス活動の横展開を図っていきたいと考えています。

これらのことから、各事業所のコンプライアンス推進メンバーとコミュニケーションを深めながら幅広く意見交換を行っていく必要があります。

そして、従来から各事業所単位で行っている上記活動との相乗効果を図りたいと考えています。

なお、各種活動の内容につきましては、年2回(3月と9月)開催される全社コンプライアンス委員会において各事業所コンプライアンス推進リーダーより報告されます。

実施時期	取り組みテーマ
2004年 3月	各部署での関係法令の洗い出し
2004年 8月	各部署での法的リスクの課題の洗い出し
2004年 11月	企業行動憲章の制定、配布（*2010年4月CSR行動憲章に改称）
2006年 6月	コンプライアンス相談ライン利用規程制定
2006年 7月	コンプライアンス相談ライン設置、運用開始（*2010年4月相談ライン専用回線設置）
2006年 10月	コンプライアンス・マニュアル作成、配布
2006年 11月	独占禁止法遵守マニュアル作成、配布
2007年 12月	不当要求マニュアル作成、配布
2008年 12月	コンプライアンス・ミーティングの導入
2009年 8月	グループ会社の全役員、全管理職より誓約書の提出
2010年 2月	下請法セミナーの開催
2010年 6月	独占禁止法監査をグループ会社へ横展開スタート
2010年 12月	コンプライアンス・マニュアル改訂、増刷
2012年 1月	マネジメント改革会議にてハラスメントに関する弁護士講話

## 4 環境調和への取り組み



### 東洋アルミグループの環境方針

#### 基本理念

東洋アルミグループは、「地球環境と調和した経営活動を通じて社会に貢献する」という認識の下、企業活動のあらゆる面で地球環境保全を重要課題と位置付け、持続可能な社会の構築に向けた取り組みを継続して推進する。

#### 基本方針

1. 省エネルギー、省資源、廃棄物減量化、資源リサイクルを推進する。
2. 製品の設計・資材の調達・生産・流通・販売・使用・廃棄に至る各段階で環境に配慮した取り組みを行う。
3. CO<sub>2</sub>、フロン、その他有害物質など地球環境に負荷を与える物質の低減に取り組む。
4. 環境に関する法律、条例、協定を遵守し、行政の施策に協力し、国際的な協調に努める。海外事業展開にあたっては、投資先国の環境上の基準を十分に把握し、環境に配慮した取り組みを行う。
5. 環境保全に関する社員教育を実施し、社員一人ひとりが地球環境問題の重要性を自覚して保全活動に努めるようにする。

#### 環境目標

私達は次のような環境目標を設定し、実現に向けて取り組んでいます。

1. 省エネルギー：原単位で毎年1%以上の改善  
(電気、ガス、重油の使用量削減)
2. 産業廃棄物：原単位で毎年2%以上の削減  
(製造工程から出る廃棄物の削減)

#### 環境調和推進策

上記の目標以外にも、次のような環境を大切にする活動を展開しています。

#### 【箔ビジネス】

1. 発生するスクラップの再生地金やペースト原料としての活用。
2. 圧延油の回収、再利用。
3. 箔加工工程で発生する溶剤排気の大气放出量削減。
4. アルミ箔の薄箔化による資源の有効利用化。
5. アルミ箔巻取用スチールコアの複数回使用。

#### 【ペーストビジネス】

1. アルミペーストの原料に、アルミ箔残材の有効利用。
2. 工程内の集塵で回収したアルミ粉の再利用。
3. 塗料用としての水性アルミペーストの開発。
4. オリフィスバルブの活用による攪拌やページに使用するエア使用量削減。

## 4 環境調和への取り組み

### 【電子機能材ビジネス】

1. 太陽電池の効率を上げる裏面電極用インキの開発、生産、販売。
2. 太陽電池を支えるバックシートの開発、生産、販売。
3. 箔加工工程で発生する溶剤排気の大気放出量削減。
4. 工程内の集塵で回収したアルミ粉の再利用。
5. 冷蔵庫の断熱用フロンを削減し、省エネを助ける真空断熱材（VIP）の生産、販売。
6. 当社の急冷アルミ合金粉末製品を用いた車両用部品の軽量化による省エネへの貢献。

### 【日用品ビジネス】

1. リサイクルアルミを用いた製品の生産、販売。
2. 製品の包装に再生紙やペットボトルを回収再生したPET容器を利用。
3. ペットボトルを回収再生した非塩素系繊維を利用した製品（レンジフードフィルター）の生産、販売。
4. 工業用部品の段ボール梱包通い箱化の推進。
5. アルミ箔及び厚紙層材のリサイクルの推進。

### 【グループ全体】

1. 社内で使用する紙に再生紙の活用。
2. コンピューターアウトプット用紙の減量。
3. 液晶プロジェクター利用の推進。

## 4 環境調和への取り組み

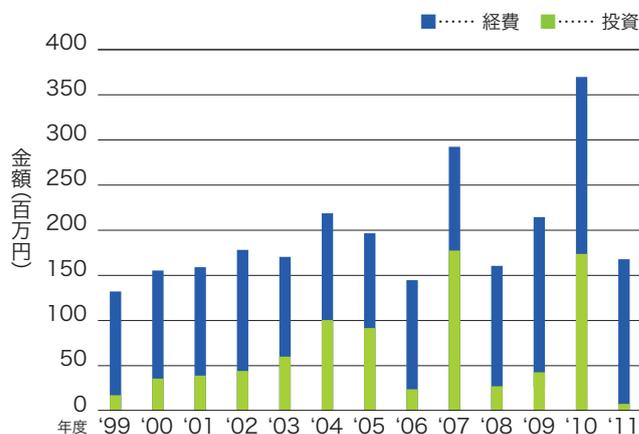
### 環境会計

東洋アルミニウムでは1999年度から環境保全の投資・経費の推移を環境会計として集計しています。

集計の範囲	東洋アルミニウム株式会社の4製造所（八尾、群馬、新庄、日野）が中心
集計の期間	1999年度から2011年度までの13年間
集計の項目	環境保全費用の投資（省エネ機器や廃棄物処理装置の設置、騒音対策等）および経費（環境指標の測定費用、人件費を含む焼却炉などの運転費用、産廃処理費用等）

2011年度の投資額は、VOC低減装置や太陽光発電への投資があった2010年度に比べて少なくなっています。

### 環境投資・経費の推移



### 環境マネジメントシステム

#### 環境マネジメントシステム組織体制

東洋アルミニウムでは経営会議の下に役員および関連事業部長で構成される「環境調和推進委員会」を設置し、環境基本方針の具体化と実行に努めています。

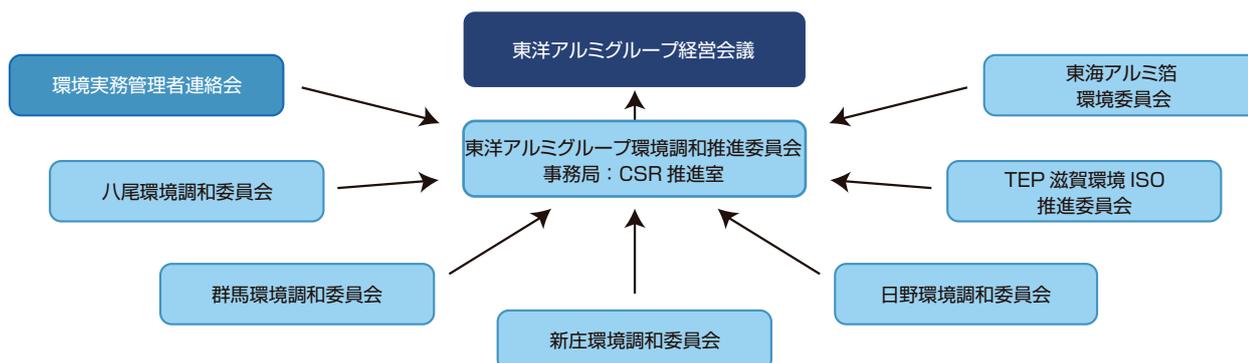
八尾製造所と群馬製造所、新庄製造所、日野製造所、東海アルミ箔、TEPの滋賀工場には環境関連の委員会を設置し、製造サイトでの環境基本方針の具体化と実行に努めています。

全体の組織図を以下に示します。

#### ISO14001 認証取得、審査登録状況

会社名、事業所名	認証取得、審査登録時期
○ 東洋アルミニウム株式会社 八尾製造所	2001年 1月 19日
○ 東洋アルミニウム株式会社 群馬製造所	2001年 8月 3日
○ 東海東洋アルミ販売株式会社	2001年 11月 22日
○ 東洋アルミエコプロダクツ株式会社	2003年 3月 7日
○ エー・エル・ピー株式会社	2003年 3月 7日
○ 東洋アルミニウム株式会社 新庄製造所	2003年 4月 11日
○ トーヤル アメリカ社	2004年 3月 4日
○ 東洋アルミニウム株式会社 日野製造所	2004年 3月 26日
○ 湖南寧郷吉唯信金属粉体有限公司	2007年 5月 16日
○ 東海アルミ箔株式会社	2007年 6月 27日
○ トーヤル テクノフロンティア株式会社	2008年 2月 22日
○ 肇慶東洋鋁業有限公司	2011年 3月 14日

#### 環境マネジメントシステム組織図



## 4 環境調和への取り組み

### 環境に関する規制遵守の状況

東洋アルミグループでは環境に関する法律、条例、協定を遵守することを基本方針で決めており、以下に示すような取り組みを行っています。

- ・ 省エネ法届出
- ・ 容器包装リサイクル法による再商品化委託料支払い
- ・ PCB（ポリ塩化ビフェニル）廃棄物の保管状況届出
- ・ PRTR 法による化学物質の届出
- ・ VOC（揮発性有機化合物）排出規制による排出施設の届出
- ・ VOC 排出規制による自主的排出抑制の取り組み
- ・ 水質汚濁防止法による特定・指定施設の届出

### 省エネ法届出

省エネ法（エネルギーの使用の合理化に関する法律）では、エネルギー使用量が一定量を超える事業所はエネルギー管理指定工場に指定され、毎年定期報告書や中長期計画書の提出が義務付けられています。

東洋アルミニウムの八尾製造所、群馬製造所、新庄製造所、日野製造所と東海アルミ箔の蒲原工場と茅ヶ崎工場の 6 工場がエネルギー管理指定工場に指定されており、毎年報告書を提出しています。TEP の滋賀工場はエネルギー使用量が少ないためにエネルギー管理指定工場に指定されていません。

東洋アルミグループには輸送量が年間 3 千万トンキロメートルを超える特定荷主に該当する企業はありません。

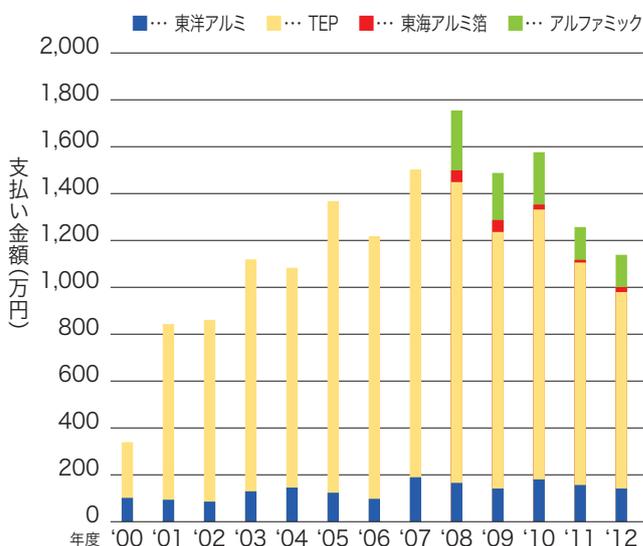
省エネ法の改正により、2010 年度から企業全体で一括して報告書を提出することになり、東洋アルミニウムと東海アルミ箔は毎年提出しています。

### 容器包装リサイクル法による再商品化委託料支払い

容器包装リサイクル法（容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律）では、容器包装の製造者と利用者に再商品化委託料の支払いを義務付けています。

紙製とプラスチック製の容器包装について東洋アルミニウムと東海アルミ箔が製造者、TEP が製造者と利用者として 2000 年から毎年再商品化委託料を財団法人日本容器包装リサイクル協会に支払っています。過去の支払額推移を以下に示します。東海アルミ箔とアルファミックの支払額は 2008 年から表示しています。

### 東洋アルミグループ委託料支払い額



## 4 環境調和への取り組み

### PCB（ポリ塩化ビフェニル）廃棄物の保管状況届出

PCB 廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法により、全ての PCB 含有機器（廃棄物として保管しているもの及び使用しているもの）を有する事業所は、2016 年までの処理を義務付けられています。

国主導の PCB 処理機関として、日本環境安全事業（株）（JESCO）が設立されました。現在東洋アルミグループで保管している PCB 含有機器に対して JESCO の PCB 廃棄物処理の早期登録を行いました。

### PRTR 法による化学物質の届出

PRTR（Pollutant Release and Transfer Register：環境汚染物質排出・移動登録）が法制化され、PRTR 法（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律）で第一種指定化学物質に定められた 462 物質で年間に 1 トン以上取り扱うものは、その排出・移動量を管理して、自治体を通じて国に届出をしなければなりません。

東洋アルミニウムが 2012 年に届け出た 2011 年度使用分の化学物質のリストは以下の通りです。

法 No.	化学物質名
53	エチルベンゼン
80	キシレン
83	クメン
87	クロム及び 3 価クロム化合物
186	ジクロロメタン（別名塩化メチレン）
213	N,N-ジメチルアセトアミド
243	ダイオキシン類
273	ノルマル-ドデシルアルコール
296	1,2,4-トリメチルベンゼン
297	1,3,5-トリメチルベンゼン
300	トルエン
305	鉛及びその化合物
308	ニッケル
354	フタル酸ジ-n-ブチル
392	ノルマル-ヘキサン
405	ほう酸及びその化合物
407	ポリ（オキシエチレン）=アルキルエーテル （アルキル基の炭素数が 12 から 15 までのもの及びその混合物に限る）

ダイオキシン類は、産廃処理設備として登録されている焼却炉がある場合は発生量の多少にかかわらず報告の義務があるため、リストに入っていますが、多量に発生しているわけではありません。

### VOC（揮発性有機化合物）排出規制による排出施設の届出

大気汚染を引き起こしている浮遊粒子状物質（SPM）や光化学オキシダントの排出量削減のため、トルエンやキシレン、ジクロロメタンのような VOC の排出規制が大気汚染防止法の改正という形で実施されています。欧米ではすでに規制されており、トータル アメリカ社では VOC 低減装置を導入しています。

大気汚染防止法は濃度規制で、排出量の規制はありません。規制される施設は以下の 6 種類の施設です。

- ・ 塗装施設及び塗装後の乾燥・焼き付け施設
- ・ 化学製品製造における乾燥施設
- ・ 工業用洗浄施設及び洗浄後の乾燥施設
- ・ 印刷施設及び印刷後の乾燥・焼き付け施設
- ・ 貯蔵施設
- ・ 接着剤使用施設及び使用後乾燥・焼き付け施設

対象施設を自治体に登録して、VOC 排出濃度を年 2 回測定することが義務付けられています。

東洋アルミニウムと東海アルミ箔の加工箔設備と VOC を使用している箔洗浄設備が規制対象になります。貯蔵施設に関しては、規制されるほど大きな施設はありません。

アルミ箔を製造する圧延機やアルミ顔料を製造するボールミルなどは対象外の施設です。

### VOC 排出規制による自主的排出抑制の取り組み

VOC の排出抑制制度では、法律による規制以外に VOC 排出削減の自主的取り組みも求められており、東洋アルミニウムと東海アルミ箔は箔関連事業で、日本アルミニウム協会（以下、アルミ協会）の下で他の製箔メーカーと共に自主行動計画を作成しています。アルミ協会の自主活動では、VOC の中で PRTR 法対象物質の排出量を、自主行動計画参加の 13 社で 2010 年度までに 2001 年度比 65%削減することを目標にしていました。最終的に 2010 年度には 82%削減しました。自主行動計画は終了しましたが、今後も継続して VOC 排出量の把握を行います。自主的取り組みで東洋アルミニウムと東海アルミ箔が削減努力する VOC は、加工箔設備と箔洗浄設備で使用されているトルエン、キシレン、ジクロロメタン、ノルマルヘキサンの 4 物質です。

## 4 環境調和への取り組み

### 水質汚濁防止法による特定・指定施設の届出

水質汚濁防止法により、特定施設を設置する工場又は事業場は、都道府県知事に設置届けを出す義務があります。2012年度から、有害物質貯蔵指定施設も届け出ることが義務付けられました。届出が必要な東洋アルミグループの特定・指定施設に関して、当該事業所から届出書を提出しています。

### 環境目標への取り組み

#### 省エネルギー

環境省によると現在最重要の環境問題は、「地球の温暖化」です。二酸化炭素を中心とする温暖化ガスの排出増によって、すでに地球大気平均気温は上昇しつつあるというのが定説となっており、人為的な二酸化炭素排出量の90%がエネルギー関連であるために省エネ活動が強く求められるようになっています。

東洋アルミニウムの省エネルギーの目標は総量での削減ではなく、原単位<sup>(注)</sup>の低減を目標としています。全社で毎年1%以上の削減を目指しています。生産量の変動等に大きく影響を受けていますが、概ね達成されています。

(注) 原単位：一定の生産量を製造するのに必要なエネルギーなどの量。原単位が減少すれば効率的に生産していることになります。生産量として重量を用いるか、面積を用いるか、標準換算した生産量を用いるか等は、各製造サイトに任されています。

最近の東洋アルミニウムの製造に使われる総エネルギー使用量(原油換算<sup>(注)</sup>)は以下のように推移しています。

(注) CO<sub>2</sub>の換算も含めて、換算係数は年度で変更せずに単一のものを使用しています。

経済状況により2008年度と2011年度に少し減少はしましたが、長期的には事業拡大にともなうエネルギー総量の増加が続いており、省エネの努力を続けて行きます。製造にともなうCO<sub>2</sub>の排出量もほぼ同様な推移をしています。

原油換算エネルギー使用量と原油換算エネルギー使用量売上高原単位の推移



CO<sub>2</sub>排出量とCO<sub>2</sub>排出量売上高原単位の推移



## 4 環境調和への取り組み

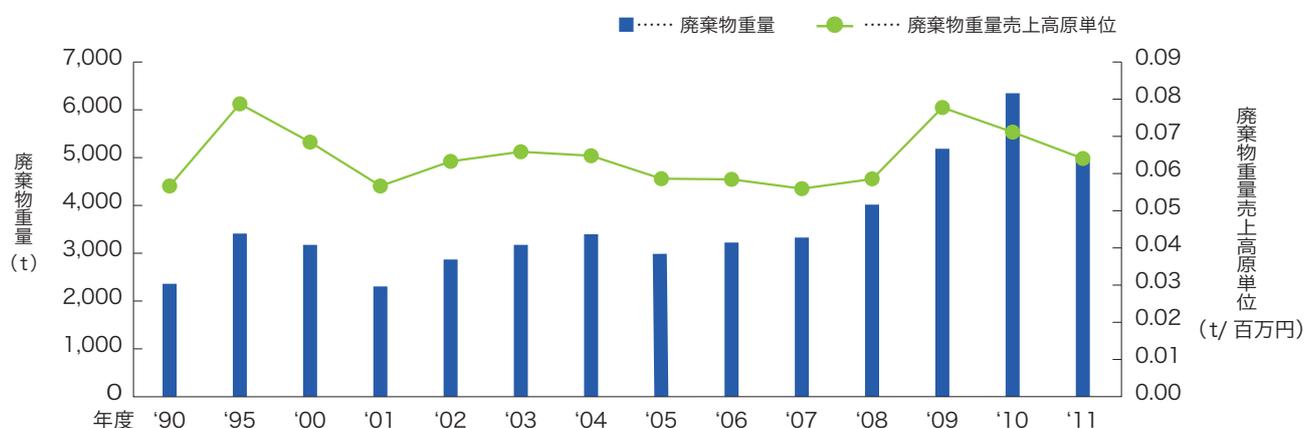
### 産業廃棄物の削減

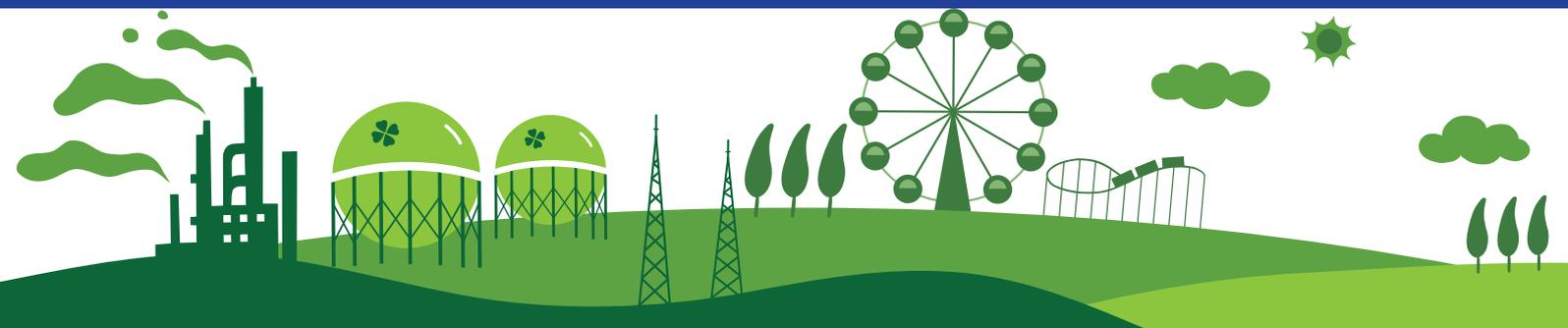
東洋アルミニウムの産業廃棄物削減の目標は全社で毎年2%以上の削減を目指していますが、各製造サイトの取り組み目標は原単位になっており、それぞれのサイトでより現実的な目標に変更し削減努力を続けて行きます。東洋アルミニウムの製造にともなう最近の廃棄物重量<sup>(注)</sup>の推移は以下のようになっています。

事業拡大に伴い2001年以降増加傾向にあり、2008年度以降は製造工程でプラスチックラミネート製品の増加により廃プラスチックが増加しましたが、2011年度は生産量減少により減少しました。今後とも廃棄物の発生抑制と削減に努めます。

(注) 有価物として排出しているものも含まれます。

廃棄物重量と廃棄物重量売上高原単位の推移





### 品質保証の取り組み

東洋アルミグループでは「安心してお使い頂ける製品、お客様の満足を得られる製品、且つ、社会に有用な製品及びサービスの提供」を目指し品質の維持・向上に取り組んでいます。

#### 1. 品質マネジメントシステムの維持向上

事業所相互に品質監査を実施して、全社的な観点からレベルアップとレベルの平準化を進めており、2011年度も引き続き主要事業所の監査を実施しました。現在2012年度に入り5巡目を開始しています。

#### 2. 新製品・新技術の審査会議を実施しています

新製品・新技術を世に送り出す前に、品質保証の観点から総合的にチェックして、製品・技術に問題を発生させないための取り組みです。最近の対象製品・技術は、フォスティロータス・TOYAL POLYCA<sup>®</sup>・バックシート改定品 (NHPL) などです。

### 3. ISO9001 マネジメントシステム認証取得・審査登録状況

会社名、事業所名	認証取得・ 審査登録時期
○ トーヤル ヨーロッパ社	1995年 6月
○ 東洋アルミニウム株式会社 八尾製造所	1996年10月
○ 東洋アルミニウム株式会社 群馬製造所	1996年10月
○ 東洋アルミニウム株式会社 新庄製造所	1997年 9月
○ 東洋アルミニウム株式会社 日野製造所	1998年 3月
○ 東海アルミ箔株式会社 蒲原工場	1998年 4月
○ 東海アルミ箔株式会社 茅ヶ崎工場	1998年 4月
○ 東海アルミ箔株式会社 矢畑工場	1998年 4月
○ 東海アルミ箔株式会社 苫小牧工場	1998年 4月
○ 東洋アルミエコープロダクツ株式会社 滋賀工場	1998年 8月
○ トーヤル アメリカ社	2000年 3月
○ 東洋アルミニウム株式会社 御所製造所 (旧昭和アルミパウダー株式会社)	2003年 9月
○ 東海東洋アルミ販売株式会社	2004年 1月
○ 湖南寧郷吉唯信金属粉体有限公司	2005年 8月
○ 東洋アルミニウム株式会社 平野工場 (旧ミレニウムゲートテクノロジー株式会社)	2007年 2月
○ トーヤル テクノフロンティア株式会社	2008年 2月
○ 肇慶東洋鋁業有限公司	2010年 8月

### 情報セキュリティの取り組み

東洋アルミグループは、お客様の個人情報、当グループの技術情報等の情報をあらゆる脅威から保護し、お客様と社会の信頼に応えるため2006年4月より情報セキュリティ運営委員会を発足させ、情報セキュリティ活動に取り組んでいます。現在、各社においてISO27001（情報セキュリティマネジメントシステム国際規格）を認証取得しています（一覧参照）。

2011年9月にも認証機関の定期審査を受け、各社とも無事登録を維持しました。

現在、2012年4月に新しく仲間に加わった御所製造所、平野工場へのマネジメントシステム拡大へ向けて活動を進めています。

東洋アルミグループは、毎年セキュリティの改善と新システムの構築を積み重ね、お客様の情報を迅速正確に処理するとともに、安全かつ確実に保護できるようソフト、ハードの両面から整備、増強しています。「情報セキュリティ事故0（ゼロ）」を目標に掲げ、各種情報システムの充実とセキュリティ環境の強化を図り、企業の社会的責任を果たして参ります。

### ISO27001 マネジメントシステム認証取得状況

会社名	事業所名	取得時期
東洋アルミニウム株式会社	大阪オフィス、東京オフィス、八尾製造所（一部）、新庄製造所（一部）	2007年 3月22日
東洋アルミニウム株式会社	群馬製造所、日野製造所、八尾製造所、新庄製造所、（但し、生産現場は除く）	2007年 11月12日
東海アルミ箔株式会社	全事業所（生産現場は除く）	2008年 9月11日
東洋アルミエコープロダクツ株式会社	全事業所（生産現場は除く）	2008年 9月 8日
東海東洋アルミ販売株式会社	全事業所	2008年 9月 8日

### 安全衛生の取り組み

従業員の安全と健康の確保は製造業の基本要件であり企業存続の基盤であります。東洋アルミグループは、「労働安全衛生が職場において最優先事項である」という理念の下、東洋アルミグループで働く全ての人の労働安全衛生への意識を高め、安全で働きやすい職場環境を整えるために、活動を進めています。

#### 1. 安全監査活動

安全活動の維持には定期的な監査が不可欠です。社長による定期安全パトロールやCSR推進室安全監査グループによる各製造拠点の巡回安全監査を行っています。2011年度は、新たに仲間に加わった昭和アルミパウダー（現 御所製造所）や中国国内の子会社各工場についても安全監査を行いました。

#### 2. 職場安全発表大会

安全成績、プレゼンテーションの合計点で1年間の職場の安全取り組みを競い合う、職場安全発表大会を毎年行い、最優秀職場賞・優秀職場賞を決めて表彰を行っています。

この大会は、職場の安全活動の目標となるとともに、安全情報共有の場として役立っています。



山本社長と発表者

#### 3. 安全体感教育

産業事故の恐ろしさと、事故の際にとるべき行動を、事故の疑似体験によって体感・習得する安全体感教育を定期的に行っています。2011年度は2回の体感教育を行い、約100

名が参加しました。この取り組みは2007年度から継続して実施しており、現在までに延べ人数で従業員の約3分の2が参加しています。

#### 4. 重大事故対策の共有

過去に起こった大きな事故の検証・対策については、その知識を皆が共有することにより、類似の事故を未然に防ぐのに役立てることが重要です。東洋アルミグループでは、毎年テーマを決めて重大事故対策に全社的に取り組み、安全活動に活かしています。

昨年度は東日本大震災を受けて地震対策の取り組みを行いました。また、回転物への「はさまれ」、「巻き込まれ」に対する取り組みを展開しました。

#### 5. トーヤル アメリカ社 健康プロジェクト

トーヤル アメリカ社では、従業員の健康のため生活習慣を改善するプロジェクトを行いました。エクササイズの励行・食生活の改善・精神面のケアを行い、目標達成ごとに表彰を出すようにしました。結果、2010年には企業医療費が2008年比約485千米ドル減少しました。この取り組みは2011年4月に行われたIHPM（健康と生産管理研究所）の第11回国際会議にてValue-based Health Awardを受賞しました。



受賞の様子

以上のような取り組みの結果、グループの労働災害の発生状況はここ数年で改善傾向が見られてきました。2011年度は、アルミ協会の安全表彰にて新庄製造所が特別優良賞、日野製造所が優良賞を受賞しました。今後も私たちは、グループ一丸となって安全で健康な生産活動を続けられるよう努力して参ります。

### 明るく健康な職場作り (AKS) 活動

明るく健康な職場作り (AKS) 活動は、東洋アルミグループの一人ひとりが心身共に健康で、充実感を持って働くことのできる職場作りを目指して 2008 年度から始めました。

2011 年度もさまざまな活動を行い、明るく健康な職場に一步近づきました。

### 80 周年記念行事

2011 年度は東洋アルミグループの創立 80 周年にあたる記念の年でした。従業員の一体感と結束力を改めて強め、今後の発展に向けて歩んでいこうという決意を込め、80 周年の記念行事を盛大に行いました。

記念行事の中で最も大きな企画は、事業所紹介ビデオの制作・発表です。各事業所で「ビデオ制作チーム」を結成し、それぞれの事業所の歴史や誇りに思う部分、日常の様子などを 1 本の事業所紹介ビデオにまとめました。完成したビデオは、2011 年 11 月 26 日の 80 周年記念式典にて発表しました。ビデオを見ながら、毎日働いている自分の職場の良さを再確認したり、通常あまり触れることのない他事業所の魅力に気づいたりすることができました。その後行った祝宴会では、事業所紹介ビデオの話題を中心に、交流が深まりました。



式典会場の様子

### 家族見学会

各事業所で、従業員の家族を対象に工場見学会を開き、好評を博しています。この見学会は、従業員の家族に、職場や環境について理解を深めてもらうこと、従業員と家族との良好なコミュニケーションを図ることを目的としています。



八尾製造所の見学会

### AKS 講演会

「明るく元気の出る講演」をテーマに、事業部門毎の戦略発表会にて、講演会を開催しています。スポーツ選手・タレント・教育者など多彩な講師を招き、職場の活力につながるような明るい講演をしていただいています。また、講演の様子はビデオで撮影して DVD を作成しており、事業所毎の研修会などの場でも上映して活用しています。

### AKSの見える化活動

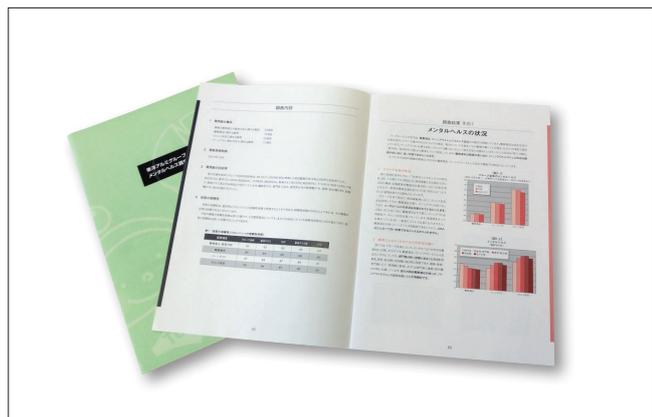
より良いワークライフバランスの実現を目指すための施策として、2010年に東京・大阪のオフィスレイアウトの変更を行いました。その後、新オフィスの紙資料を削減しスペースの有効活用を目指す「レスペーパーワークチーム」、新オフィスでの部門間のコラボレーションを促進する「コラボワークチーム」の2つのワークチームが活動し、働き方の変革を進めています。2011年には、大阪オフィスでのオフィス改革の取り組みを「日経ニューオフィス賞」に応募し、近畿地区デザイン賞を受賞しました。

### AKSアンケートに基づく改善

2010年10月に、従業員の心身の健康に関する調査「AKSアンケート（第2回）」を行いました。2011年度は、このアンケートの結果を元にしてさまざまなAKS活動を展開しました。

今回のアンケートでは分類を細かくした結果、部門別のデータを得ることが出来ました。この部門別データを各部門長にフィードバックした上で、部門長は部門における対策を検討・実施（コミュニケーションの向上のため朝会の実施、部内イベントの強化等）し、報告するようにしました。

また、アンケート結果はわかりやすい冊子にまとめ、アンケート対象者全員に配布しました。



アンケート結果パンフレット

## 5 社会への取り組み | 地域社会との関わり

### 地域社会貢献活動

東洋アルミグループでは、各事業所でさまざまな社会貢献活動に参加しています。

#### 地域社会貢献活動一覧

事業所	名称	実施時期	備考
八尾製造所	地域夏祭 子供会へ寄付	2011年7月	毎年寄付
八尾製造所	盆踊り 子供会へ寄付	2011年8月	毎年寄付
八尾製造所	河内音頭祭りへ寄付	2011年8月	毎年寄付
八尾製造所	八尾市産業展「ビジネスマッチング博」参加	2011年9月	毎年参加
八尾製造所	曙川スポーツ祭 参加	2011年9月	毎年参加
新庄製造所	少年野球ヘグラウンド貸出し	通年	毎週末
新庄製造所	葛城市納涼花火大会へ協賛	2011年7月	毎年協賛
新庄製造所	笛吹神社夏祭りへ協賛（新聞広告）	2011年7月	毎年協賛
新庄製造所	忍海小学校 朝日写真ニュース購読	2011年7月	毎年実施
新庄製造所	工場外周清掃	2011年7月,10月	
日野製造所	工場外周清掃	2011年4月,8月	毎年実施
日野製造所	日本赤十字献血	2011年4月	毎年参加 2011年は感謝状を授与
群馬製造所	親善ソフトボール大会	2011年10月	伊勢崎市境進出企業連絡協議会主催
群馬製造所	いせさき産業祭工業展	2011年11月	伊勢崎市境進出企業連絡協議会主催
群馬製造所	親善ボウリング大会	2011年12月	伊勢崎市境進出企業連絡協議会主催
大阪オフィス	日韓交流おまつり 2011 in Tokyo へ協賛	2011年9月	
東京オフィス	第36回 秩父宮記念 富士登山駅伝競走大会 参加	2011年8月	御殿場市陸上競技協会主催
東洋アルミエコプロダクツ 滋賀工場	団地協会内清掃活動	2011年7月	毎年参加
東海アルミ箔 蒲原工場	工場周辺の歩道、フェンス周辺の清掃	毎月1回	50名/回が参加
東海アルミ箔 蒲原工場	「蒲原まつり」へ協賛	2011年7月	日軽金グループで寄付
東海アルミ箔 蒲原工場	赤い羽根 共同募金	2011年8月	静岡市共同募金委員会
東海アルミ箔 蒲原工場	蒲原東町自治会 お盆夏祭りへ協賛	2011年8月	
東海アルミ箔 蒲原工場	富士川河川敷 緑地公園の清掃	2011年12月	2名が参加
東海アルミ箔 茅ヶ崎工場	環境保全モデル工場の視察、工場での花の栽培等で緑化を推進	通年	茅ヶ崎地区工場等緑化推進協議会主催
東海アルミ箔 茅ヶ崎工場	地元の祭りへ協賛	2011年4月	参加多数
東海アルミ箔 茅ヶ崎工場	私立萩園中学校 中学生の工場実習、社外学習受入	2011年11月	
東海アルミ箔 茅ヶ崎工場・矢畑工場	相模川支流の河川パトロール 清掃活動に参加	4回/年	相模川をきれいにする協議会主催
東海アルミ箔 横浜本社	横浜FC 障がい者スポーツ活動に協賛	2011年8月	
東海アルミ箔 横浜本社	横浜市神奈川区へ100周年記念モニュメント寄贈	2011年11月	
東海アルミ箔北海道 苫小牧工場	苫小牧港祭りへ寄付	2011年8月	
東海アルミ箔北海道 苫小牧工場	樽前山神社 神札初穂料	2011年12月	
東海アルミ箔北海道 苫小牧工場	苫小牧スケート祭りへ寄付	2011年12月	

## 5 社会への取り組み | 地域社会との関わり

東洋アルミグループでは事業所周辺の地域の方々との連携を大切にしています。

今回は新庄製造所の事例を紹介します。

### 新庄製造所における地域貢献について

私たち製造メーカーは、その立地する地域と友好的関係を構築していくことが非常に重要です。

日頃の近隣地域への情報提供や支援協力を怠ると、些細なことから地元からの信頼を失い、事業拡張等への理解を得どころか、地域から追放されるような事態にもなりかねません。

私達は地域に貢献し、ともに共存・発展していくために以下のような活動を行っています。

#### ①ソフトボール大会および懇親会

新庄製造所は葛城市における新町と笛堂という2つの地区の境に位置しています。

私達は20年以上に亘り、毎年3月に「新町・笛堂・東洋アルミ対抗ソフトボール大会」を開催し、地元との懇親を深めてきました。

メンバーの平均年齢は年々上昇傾向で、バットの振りも走る足取りも、おぼつかなくなる一方ですが、気持ちだけは少年に帰り、和気藹々と楽しんでいただいています。

#### ②近隣地区役員の工場見学

近隣地区の方々と、①のような懇親の場は定期的に設けていましたが、これまで新庄の操業内容を知っていただく機会はあまりありませんでした。

そこで昨年より、笛堂、新町の区長を始めとする役員の方々をお招きし、工場見学を実施しました。(2011年に笛堂、2012年は新町)

その結果「東洋さんの企業内容や姿勢を知る事ができたと同時に、誠意も伝わって有意義であった」「これから本当の隣人として安心して付き合うことができる」とたいへん好評でした。



見学会の様子



所長による説明

#### ③その他の地域貢献

この他にも、労働組合を通じての新町地区の清掃活動へのボランティア参加、地元チャリティーバザーでの社内バンド・シルバーサウンズによるジャズ演奏、葛城市花火大会への協賛、地元小学校への新聞ラック設置、地元少年野球へのグラウンド貸与、市の体育大会開催時の駐車場提供といった、できる限りでの地域への貢献を実施し、【地元に愛される企業】であり続ける努力をしています。



### 高純度窒化アルミ トーヤルナイト®シリーズ

窒化アルミニウムは、金属のように熱を伝えやすく、しかも、金属と違って電気を通さない特殊なセラミックスで、この性質を利用して、半導体部品を熱から守るために使われています。たとえば、低燃費なハイブリッドカーのパワーモジュール基板や、長寿命でCO<sub>2</sub>排出量の少ないLED照明の基板などとして、環境に優しい製品に使用されています。私たちはその原料となる窒化アルミニウム粉末トーヤルナイト®シリーズを提供しています。



高純窒化アルミ粉



高純度窒化アルミ粉の使用例

### 粉体塗料用アルミフレーク PCX、PCFシリーズ

従来の溶剤型塗料による塗装から、環境にやさしい水性及び溶剤を一切含まない粉体へと塗装方法も変遷しております。その中で、粉体塗料用のアルミフレークとして、PCFシリーズ及びその廉価版であるPCXシリーズがあります。両製品とも無溶剤のタイプで、表面を樹脂等でコーティングすることにより静電塗装への対応や、優れた耐薬品性を可能にしています。

鋼製家具、自動車ホイール、自動販売機など、幅広い用途に使用されています。



粉体塗料用アルミフレークの使用例

### 財団法人軽金属奨学会の活動

財団法人軽金属奨学会は、1955年（昭和30年）1月に、当時の東洋アルミニウム株式会社の創立25周年記念事業の一環として、同社の大株主であったアルキャン・アルミニウム・リミテッドの協力を得て設立されました。それ以来、東洋アルミニウム株式会社の株式を基本財産とし、その安定した配当により財政基盤が確立し、関係者の理解と協力を得て、研究助成事業の充実と振興奨励事業の新しい展開を図りながら事業活動を続けています。

当会は平成22年8月26日付で公益財団法人として認定されました

同財団の目的は、軽金属に関する学術の研究及び教育を助成奨励し、軽金属工学の進歩に寄与するところにあります。軽金属工業及び軽金属工学の振興助成のためには、その基礎となる大学での研究教育を充実させることが大切であるという認識の下に、事業の重点を大学における軽金属教育や研究

の助成に置いて、諸活動を展開しています。

具体的な活動としては、教育研究資金、研究補助金、海外交流補助金といった1件としては10万円から25万円と小口ながら多数の先生方を対象にしたものと、課題研究や統合的先端研究といった1件で1,000万円から2,000万円（共に2年間）とまとまった研究資金を提供するものがあり、他には各大学図書館への軽金属関係文献の寄贈、軽金属学会活動の援助、軽金属研究者の表彰等を行っています。

平成23年度に実施された主要な事業としては、教育研究資金・研究補助金・海外交流補助金交付が合わせて89件、統合的先端研究、課題研究の資金交付が各々1件、47大学・高専に軽金属関連文献を寄贈、研究試料の提供は12件、表彰が9件等、軽金属研究者、グループ、学会、研究機関等に対し、総件数164件、それに対する総事業費は4,185万円となりました。

東洋アルミグループは、この財団を設立以来57年間、ずっとその活動に協賛し応援を続けています。



課題研究発表会の様子

2011年3月に発生した東日本大震災は、日本中に大きな衝撃と深い悲しみをもたらしました。

東洋アルミグループでは、グループ総計で約5,900万円の義援金をお送りしました。また東洋アルミエコープロダクツ（株）製の生活用品約1,000万円相当を、被災地への支援物資として提供しました。

被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈り申し上げます。